■ 工学部ロボティクス学科

楽しく、学べ。ロボット創造実習

１月18日㈮、ブロック玩具のレゴを利用した自律走行型ロボットを製作する授業「ロボット創造実習」で「レゴロボット競技会」を開いた。

この競技会は、３分間でフィールド内のピンポン球をどれだけ回収できるか、またゴール地点に持ち帰れるかをポイント制で競うもの。学生は二人チームで、メカニズムやプログラムに独自のアイデアを盛り込み、オリジナルロボットを作り上げる。

競技はハプニングや奇跡の連続、だから盛り上がる。

今回は中学生の見学もあり、ロボティクス学科特有の学生参加型オモシロ公開授業が展開されていた。

■ 工学部建築学科

Dラーニング Project11
BUILDING WORKSHOP MIRANO-NAGOYA
C-SCAPE

10年の歴史を持つDラーニング（社会参画型授業）が、ミラノ工科大学建築学科も参加する形で、2007年度後期授業「建築設計Ⅳ」から始動した。課題は、「アーティストのための集合住宅と公園の設計」。ミラノに隣接するセスト・サン・ジョバンニ市内の工場跡地およそ５万㎡の約１／４のスペースにコレクティブな集合住宅と公園（C- Scape）の設計を求めるもの。DITは建築学科３年生が、ミラノ工科大は５年生が課題に挑戦。

１月25日㈮、DIT白水校舎製図室で発表会を開催。ミラノ工科大はチャットを利用して参加した。今後は両校の提案が跡地再開発の参考案として計画地の開発事務所に、ミラノ工科大学ルッカ先生を通じ紹介される。

■ 工学部都市環境デザイン学科

自主性を育てる都市環境プロジェクト実習

12月13日㈭、白水校舎4101講義室で「都市環境プロジェクト実習」最終報告会オーラルプレゼンテーションを行った。そこではとても１年生の授業とは思えない堂々とした発表会が展開されていた。その背景は、学生の自主性を育てるプロジェクト実習のカリキュラムにあった。

この実習は、１チーム４～６人に分かれて、それぞれの調査研究テーマを決める。そのテーマは、地域の環境関連問題から学生が自主的に選ぶ。調査研究活動は学生たちの自主的な学習活動と位置づけ、現地調査・資料調査・聞き取り調査等を行う。中間発表会も行い、学生たち自身が進捗状況を確認できるようにし、最終的には発表用パワーポイント、ポスター、概要資料の３種類を提出、最終報告会（オーラルプレゼンテーション・ポスターセッション）に臨むものだ。

今年度のテーマは「中部国際空港（セントレア）の建設によって生じた環境問題」「名四国道の騒音や振動を減らすための対策」「名古屋市内の地下水の有効利用」「東海地震が発生したときの名古屋のライフラインを確保する方法」等、12テーマを実施。

問題を発見し、その解決策を提案する、この都市環境デザイン学科学生参加型授業は、エンジニアリングデザイン能力を養成している。

■ 2007卒業研究発表

ラスト勝負!!

平成19年度 学位記授与式

跳びたて、DIT生。

３月21日㈮、DIT石井記念体育館で、平成19年度学位記授与式が厳粛に挙行された。
卒業生および修了生819人がDITから社会に跳びたつ。

学長賞（学部）

機械工学科　**柏原啓介**

他の学生の模範となるような、礼儀正しく、何事にも前向きに努力する性格の学生です。また、卒業研究においては、独自性、新規性のある実験結果を導き出し、共同研究を行った修士課程学生の研究遂行に貢献しました。（指導教員／鈴木桂輔）

機械工学科　**中林温詩**

学業成績が優秀で、温厚な性格から研究室内でリーダー的な役割を果しました。また、卒業研究では，CAD・CAMによる３次元切削加工にて金型製作に励み、鋳造模型を完成させました。
（指導教員／青山正治）

情報機械システム工学科　**梅田一輝**

入学以来学業に努力し、２年次には学業奨励生、３～４年次には在学生学業特別奨学生に選ばれました。人物的にも温厚です。
（指導教員／松浦章裕）

情報機械システム工学科　**丸田二郎**

学業成績が抜群に優秀なのはもちろんのこと、人格的にも大変優れており調和の取れた性格です。研究に対する姿勢もすばらしく、卒業研究の成果は特許取得という形で結実しました。
（指導教員／大嶋和彦）

電気電子工学科　**鈴木尭志**

学業成績優秀であり、かつクラブ委員会委員長としてリーダーシップを発揮し、皆をまとめていく姿勢は全学生の範となるものでした。
（指導教員／佐藤義久）

電気電子工学科　**中井克弥**

学業成績優秀であり、また卒業研究では、グループのリーダーとして研究計画を立案・推進し、その勉学姿勢は同期学生の範となるものでした。
（指導教員／佐藤義久）

建築学科　**生島三鈴**

２年次に学業奨励生、３・４年次には在学生学業特別奨学生に選ばれ、４年間一貫として優秀な成績を修めてきました。また普段の生活態度も品行方正で、協調性があり、他の学生の模範となるものでした。　（指導教員／佐藤達生）

建築学科　**奥村兼正**

２年次以降続けて学業奨励生に推薦されてきた学業優秀な学生です。また建築学科授業の中で重要な位置を占める建築設計において常に優れた作品を提出し、デザイン面でのクラスの牽引車としての役割を担ってきました。
（指導教員／笠嶋　泰）

都市環境デザイン学科　**江崎寛朗**

学業成績が優秀であることはもとより、学習そのものに対する積極的な態度が模範となる学生です。卒業研究においても、グループのリーダー格として、きちんとした仕事を残す非凡な能力を発揮しました。　（指導教員／棚橋秀行）

都市環境デザイン学科　**小川将樹**

４年間の学業成績が極めて優秀であり、卒業研究への取り組みも他の学生の模範となるものでした。
（指導教員／酒造敏廣）

情報学科　**石野真由**

学業、人物、健康共に優れ、他の学生の模範となるものでした。
（指導教員／岩間尚文）

情報学科　**佐藤　彩**

学業優秀、卒業研究において卓越した才能を発揮し、他の学生の模範となるものでした。
（指導教員／小高直樹）

電気電子工学科　**早川明利**

ロボット研究部に所属し、第４回CVG中部に応募し、「リモコン花火」電子工作キットで大賞を受賞しました。さらに第３回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で文部科学大臣賞（テクノロジー部門大賞）を受賞しました。この活躍は素晴らしく、本学の名を世に知らしめた功績は大きい。　（指導教員／堀尾吉巳）

情報学科　**梶　彰克**

スキー部に所属し、全国学生岩岳スキー大会（基礎スキーの部、アルペン競技の部）において３年連続で上位入賞をはじめ、多くの大会で優秀な成績を残し、その活躍は素晴らしく、本学の名を世に知らしめた功績は大きい。
（指導教員／茂吉雅典）

学長賞（大学院）

機械工学専攻　**五藤　光**

「α－ピネンの供給によるドライバの意識レベル向上に関する研究」

修士論文の研究内容は、新規性、独自性の観点で優れ、修士論文審査会における発表態度についても極めて優れており、他の学生の模範となるものでした。（指導教員／鈴木桂輔）

機械工学専攻　**塚本浩一**

「金属組織の異方性及び応力場の影響を考慮可能な延性破壊評価試験法の確立」

修士論文の研究内容は非常に優れており、また、論文審査会における発表態度は他の学生の模範となるものでした。（指導教員／小野宗憲）

電気･電子工学専攻　**山口真央**

「走査トンネル顕微鏡の製作」

ナノテク分野において原子構造観察に用いられる走査トンネル顕微鏡を完成させた。全ての制御システムを自作で構築し、グラファイト表面の炭素原子の観察に成功を納めた。本装置は今後の未踏領域の研究の基礎を築くものであり、その貢献度は極めて大きい。（指導教員／堀尾吉巳）

建築学専攻　**棚村壽三**

「住宅における調理臭の拡散・残留特性と制御方法に関する研究」

明確な研究目的を持ち、実験手法の開発から結果の解析に至るまで優れた学力と行動力を持って、先駆的な研究に積極的かつ計画的に取り組み、得られた成果をわかりやすく発表しました。　（指導教員／光田　恵）

建築学専攻　**古田寛生**

「逐次応力指定によるテンション構造の形態解析と検証実験」

研究の主旨をよく理解し、優れた行動力をもって、理論解析と実験による検証の両者を積極的かつ計画的に進め、得られた成果についてわかりやすく発表しました。
（指導教員／萩原伸幸）

都市環境デザイン専攻　**伊藤一馬**

「ペット飼育の現況と都市環境整備の課題に関する基礎的研究」

修士論文の内容と発表内容がとくに優秀であり、研究に対する真摯な取り組み姿勢・態度も他の学生の規範となるものでした。
（指導教員／嶋田喜昭）

都市環境デザイン専攻　**森　俊介**

「工場・旧鉱山周辺環境の重金属汚染評価とアンチモン除去吸着剤に関する研究」

修士論文の内容と発表内容がとくに優秀であ

学長賞(大学院)表彰

学長から「真っ黒だね」と声をかけられる 梶 彰克君

り、学問に対する真摯な姿勢・態度も他の学生の規範となるものでした。(指導教員／堀内将人)

情報学専攻　**市川紀行**

「Hopfieldニューラルネットによる疎データCT像再構成」

相互結合型ニューラルネットを少数カメラ・データからの断層像の合成に応用し、コンピュータによる情報処理の実験的・数理的な研究として優れた成果を上げました。

(指導教員／岩間尚文)

三好賞

機械工学科　**服部啓太**

成績優秀であり、卒業研究においてもよく努力しました。

(指導教員／高藤新三郎)

情報機械システム工学科　**大橋隆之**

ハンドボール部に所属し、平成18年度東海秋季１部リーグに出場し、チームの勝利に貢献してベストセブン（個人賞）に選出されました。平成19年度東海春季１部リーグでは得点王に選出されました。

(指導教員／石田敏彦)

電気電子工学科　**久保山佳樹**

学業成績優秀で、卒研グループ及び研究室のリーダー的存在の学生です。自ら考えたことを実践し、問題点を解決しながらすすめてきた真摯な卒業研究への取り組みは、研究室同僚への模範となるものでした。

(指導教員／関谷昌久)

建築学科　**羽根健介**㊧　**松本雄大**㊨

「コロキウム：構造形態の解析と創生2007」（日本建築学会）において実施された、構造の新しいかたちや独創的なアイデアを競うコンテストである「形態創生コンテスト2007」に、「斜材のみで形成される柱の形態創生」と題して作品を共同で応募し、その独創的な形態創生法が評価され、優秀作品に選ばれました。

(指導教員／萩原伸幸)

都市環境デザイン学科　**岩城詞也**

高校２年生在学中に測量士補の資格を取得するほどの努力家であり、本学に入学してからも評定平均値順位を着実に上げてきました。また、バスケットボール部でも活躍しており、文武両道の大学生活は、他の学生の模範となるものでした。

(指導教員／大東憲二)

情報学科　**安田貴実恵**

学業に勉め励み優秀な成績を残すとともに、卒業研究において若い女性の瑞々しい感性のもとに専門家を驚かせるような成果をだし、他の学生の模範と認められるものでした。(指導教員／山内五郎)

笑・笑・笑！ 卒業パーティー

学位記授与式後、学生・教職員652人が一堂に会し、卒業パーティーを盛大に行った。

学生の勇姿!

吹奏楽団
The 22nd Rergular Concert

３月２日㈰、名古屋市中村文化小劇場ホールでDIT吹奏楽団が第22回定期演奏会を開催し、およそ200人の観客を楽しませた。

今回のテーマは『旅』。第１部ステージの『世界』では「SOAR THE UNTAMED SPIRIT」「FIRE DANCE」「祈りの旅」「タイタニック・メドレー」を軽やかに演奏した。第２部は定期演奏会の名物となりつつある企画ステージ。これを毎年楽しみにしているファンもいるらしい。今年の題目は「桃太郎」。一風変わった桃太郎に、会場は笑いに包まれていた。

最終ステージの第３部は『四季』。七夕の伝説と真夏の夜空をモチーフにした「THE SEVENTH NIGHT OF JULY」をはじめ他４曲を披露した。

副団長の
成田瑞樹君（E06）

裏千家茶道研究会
澤岡昭学長より茶碗の贈呈を受ける

平成18年度より発足、活動している「裏千家茶道研究会」。茶道の和を広げようと、毎週火･水曜日の昼休みにA棟14階談話室（和室）でお茶会を開いている。そこには同フロアのラウンジで昼食を済ませた教職員や学生がふらっと訪れる。そのメンバーのひとり、学長より「茶道研究会の更なる発展を応援します！」と茶碗４点の贈呈を受けた。

部長の 鵜飼一樹君（B06）

ロボット研究部＆建築学科学生
南区魅力発見フェスティバル

「いよいよ100歳！南区をもっと知り、もっと好きになるために」を合言葉に南区制100周年プレイベント「第５回南区魅力発見フェスティバル」が３月15日㈯、南区役所講堂で開かれた。

そのイベントの「ものづくりのまち魅力発信コーナー」にDITロボット研究部と建築学科の学生が協力参加。「サーカスロボット・２足歩行ロボットの実演」と授業で取り組んだ「まちづくり提案」をそれぞれブース展示した。

その中で住宅提案の模型やパネルを見ているお年寄りの方へ熱心にバリアフリーについて意見を聴取し、スケッチブックにメモしている学生の姿が印象的だった。

井出輝峰君（A06）㊨

DIT広報研究会
笠寺観音商店街冬のイベントを盛り上げ!!

寒風吹きすさぶ12月９日㈰、笠寺観音商店街恒例の冬のイベントに、広報研究会が初参加。カードマジック、似顔絵描き、タロット占いでイベント活性化に一役買った。

カードマジックは、名古屋とアメリカ・オレゴンでお馴染み、加藤瞬君（05B）。鮮やかな手つきで、来場者に「なんで?」を連発させた。似顔絵描きなら、片田悠介君（05B）。列ができるも素早く描き上げ、「似てる！」の歓声が子供たちからあがった。そしてタロット占いは加納秀一君（05B）。１ヶ月前からの独習が実を結び、新聞折込みやら中日新聞の「ショッパー」の告知で、「タロット占いがあるから来ました」という人も大勢いて、寒いのに汗を吹き吹きの奮闘。みんなの受けに、６人の研究会メンバーも満足感いっぱいだった。

同商店街の伊藤理事長からは、「来年の春も夏も頼む」と、早くも予約されてきた。

学生の勇姿!

ロボット研究部

青木康宏さん（MM06）

東海テレビ「デニーロ！」に出演

『名優ロバート・デ・ニーロは、“自らに実体験を課すことで、与えられた役を徹底的に演じ切る…”そう、芸能界を生き延びるには“道を極めた者”からその真髄を学び取ることが不可欠なのだ！』これが番組「デニーロ！」のアプローチ。

今回の放送は、松竹芸人オーケイが「ロボットの達人に挑戦」。青木さんは“道を極めた者”として、オーケイ岡山さんのロボットバトルチャレンジへの道を支援した。

また撮影当日、たまたまOB戦でDITに集まっていたラグビー部40人もエキストラとして急遽出演することに。彼らもまた撮影をおもいっきり楽しんでいた。

ノリノリの青木さんとラグビー部

近藤弘憲さん（MM07）

第５回 キャンパスベンチャーグランプリ中部の表彰式でスピーチ

２月４日㈪、名古屋マリオットアソシアホテルで第５回キャンパスベンチャーグランプリ中部の表彰式が行われた。その会場に第４回中部大会大賞、全国大会文部科学大臣賞（テクノロジー部門大賞）受賞の近藤さんがゲストとして招かれ、式の最後に壇上からスピーチ。「実は３ヶ月前、私はさまざまなことに悩み苦しみ、ものづくりの道から逃げ出そうとしました。そんな時この受賞を機に出会ったたくさんの人たちに支えていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます、ありがとうございました！これからも感謝する気持ちを忘れることなく、発明家になるという小学生の頃からの夢に向かって進んでいきたいと思っています。今回受賞された皆さんも、これから事業プランを進めていくにあたって、挫折することがあると思います。そんな時が来ても、きっと支えてくれる人がいるはずです。目標に向かって頑張ってください。」と第５回受賞者にエールを送った。

ハウジング＆リフォームあいち2008

３月14日㈮～16日㈰の３日間、吹上ホールで「ハウジング＆リフォームあいち2008」が開かれた。

そのイベントの「新しい暮らし方を提案！ロボットのある暮らし」コーナーにDITロボット研究部が協力参加。たくさんの子ども連れ来場者を楽しませていた。

第13回 ROBO-ONE大会でロボ研が健闘

DITロボット研究部は、３月22日㈯・23日㈰に東京都後楽園ホールで開催された全国大会に３台のロボットで出場した。

今回は、112台の２足歩行ロボットがエントリーし、参加資格審査のスロープを踏破した44台の中で、「RL03-Indra（インドラ）」（MM06.青木康宏さん）は予選デモンストレーションで腕を伸ばした状態でのロンダート（側転ひねり降り）を成功させ、軽量級で自己最高の予選４位となった。決勝トーナメントでは１回戦で惜しくも昨年の優勝ロボットにスリップダウンの僅差で敗れたが、「近藤科学賞」と「ツクモロボット王国賞」を受賞した。

また、今回新たに製作した「アリス」（04J西岡範晃君、R07.加藤貴也君）は参加ロボットの中で身長が110㎝と最も大きく、その外見と将来性を見込まれて「HPI賞」を受賞した。その副賞は20万円相当のHPI社製ロボットキット。今回もDITロボット研究部の活躍が見られた大会であった。

詳細は、ROBO-ONE公式ページ（http://www.robo-one.com/）参照。

トコトン先生 大活躍！

■ 澤岡 昭 学長
日刊工業新聞東海地区販売懇話会総会で講演

２月20日㈬、名古屋東急ホテルで日刊工業新聞東海地区販売懇談会総会が開かれ、澤岡学長が「宇宙飛行士になりたい私～完成間近の国際宇宙ステーション～」と題し講演した。

始めの自己紹介でタイトルの本気さと偽りがないことを証明、ぐぐっと参加者の関心を引き寄せ、講演スタート。パワーポイントを用いてNASA提供の写真やディスカバリー号船長E. Collinsさんとの学長プライベート写真も紹介。時折、宇宙飛行士のウラ話を交えながら国際宇宙ステーション等について説明した。

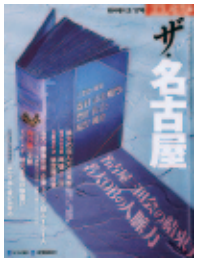
この講演を通してまさに雲の上の存在である宇宙開発事業がリアルに感じられ、興味を持った参加者は少なくないだろう。その証明に講演後の懇親パーティで参加者より他会場での講演を依頼されている学長がいた。

テレビ朝日「報道STATION」(3／11)
東海ラジオ「小島一宏のモーニングあいランド」(3／14)出演

３月11日㈫に打ち上げられたスペースシャトル「エンデバー」について、国際宇宙ステーション（ISS）とのドッキング、土井隆雄宇宙飛行士、「きぼう」船内保管室のISS取り付け、また今後の日本における宇宙開発事業等のインタビューが放送された。

エコノミストに掲載

３月17日号エコノミストの見出しは「ザ・名古屋」。「オンリーワン」への取り組み！「教育最前線2008わが大学」に澤岡学長のインタビュー記事が掲載された。



■ 井上孝司 教授
（工学部機械工学科機械工学専攻）
横山弥生 教授
（情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻）

視聴率24%↑
『ぴーかんテレビ』に出演

前回放送が東海地方で視聴率24%を超えた『ぴーかんテレビ』（東海テレビ放送）の主婦力判定テスト。その実験ロケにレギュラー（!?）の井上孝司教授と今回が初登場の横山弥生教授が出演依頼を受け参加。実験立会いと結果の解説を担当した。

■ 澤岡 昭 学長・光田 恵 准教授（工学部建築学科）
宇宙ものづくりフォーラム／名古屋講演会で講演

１月24日㈭、ポートメッセ名古屋で「宇宙」と「ものづくり」をキーワードに新材料・新事業の創出に繋げることを目的とする「宇宙ものづくりフォーラム／名古屋講演会」が開かれ、澤岡学長と光田准教授がそれぞれ講演した。

澤岡学長は、「宇宙技術の快適な地球生活への展開」～スーパートイレを求めて～と題して、宇宙航空研究開発機構 技術参与の立場から、公表されていない宇宙トイレの実態と今後の地上生活への展開の可能性について私見を述べた。

また光田准教授は、「におい研究最前線から」～排泄物臭の正体～と題して、介護環境での実験データ、看護士の７割が排泄物臭の改善を求めている現状、においの低減対策等について説明。さらにDIT卒業研究学生の活躍や患者・看護士側の立場から取り組んでいる研究スタイル等についても紹介した。

トコトン先生大活躍！

■ 井上孝司 教授（工学部機械工学科機械工学専攻）

特殊鋼販売加工技士実務編研修講座
実習の講師を担当

３月12日㈬、DIT創造製作センターで㈳全日本特殊鋼流通協会名古屋支部主催の人材育成講座「第６回特殊鋼販売加工技士実務編研修講座実習」が開かれ、井上教授が講師を務めた。

その実習会に集まった12人の若いセールスエンジニアたちへ機械加工に関する基礎知識と工作機械のメカニズム等について説明した。

■ 大東憲二 教授（工学部都市環境デザイン学科）

鴨下大臣と語る
希望と安心の国づくりに参加

２月23日㈯、アイリス愛知に鴨下一郎環境大臣・地球環境問題担当を招いて、「鴨下大臣と語る　希望と安心の国づくり」が開かれた。その会に内閣府からの案内に応じ、大東教授が出席。「快適な都市環境づくりに向けてどのような分野に重点的に取り組むべきか?」、「市民、事業者、自治体、国などがどのように協働してまちづくりを進めていくのがよいか?」を論点に踏まえて議論した。

大東教授は、環境の質を高める都市づくりにおいて、「行政がお金を使ってまちづくりをする時代はもう終わったと思う。市民あるいは事業者が自発的にまちづくり活動へ参加し、満足感を得る。そういった環境・仕組みづくりに行政は協力・努力して欲しい」と指摘した。

■ 堀　美知郎 教授（工学部機械工学科先端機械工学専攻）

水素エネルギーシンポジウムin愛知で
コメンテーターを務める

１月28日㈪・29日㈫、名古屋国際会議場で水素エネルギーシンポジウム in 愛知が開かれ、燃料電池研究開発の権威である堀教授がコメンテーターとして参加、挨拶した。

このシンポジウムでは、国やNEDO技術開発機構の取り組みを紹介するとともに、「燃料電池自動車」や「家庭用燃料電池」に焦点をあて、実用化に向けた技術開発の現状・課題、市場化を視野に入れた導入・普及のあり方などについて議論が展開された。

■ 鈴木桂輔 准教授（工学部機械工学科機械工学専攻）

「森林の香りで事故を防げ」
中日新聞（3/4）掲載

『「人の役に立つ仕事で社会に還元したい」という信念の下、「人と機械の橋渡し」をテーマに研究活動を続けてきた。事故予防装置の開発のほか、操作負担の少ない車いすの開発などを企業と共同で手掛ける。』と鈴木准教授の研究が紹介された。

また、朝日新聞（2／23）にも『森の香りで事故防止／ブレーキ反応時間半減』と大きく掲載されている。

■ 笠嶋　泰 教授（工学部建築学科）

日本建築学会教育賞（教育貢献）を受賞

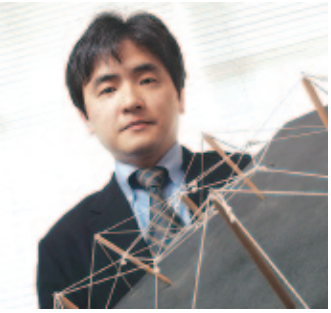
日本建築学会教育賞（教育貢献）は、日本建築学会が建築に関する高等教育等から、近年中に実施されている斬新で特色ある教育に贈るものである。今回その賞に笠嶋教授がリーダーとして取り組んだ「Dラーニングによる建築の企画力・計画力の養成実践」が選ばれた。このプログラムは実際に存在する「街の問題」を授業の課題として取り上げ、デザイン提案という形で地域にフィードバックするもの。笠嶋教授の教育に対する先進的な取り組みが建築教育の発展に繋がるとの評価を得た。

この受賞については、次号で詳細を紹介したい。

トコトン先生 大活躍！

■ 宇野　享 准教授・萩原伸幸 准教授（工学部建築学科）

シンポジウム「建築の表現にエンジニアリングが資するもの」に参加



萩原准教授

２月16日㈯、DIT滝春校舎B棟0410講義室で日本建築学会東海支部主催の学術研究シンポジウム「建築の表現にエンジニアリングが資するもの」が開かれ、萩原准教授が司会を務め、宇野准教授が「流体空間のデザイン」と題し講演した。

建築は、デザイン的な側面と工学的な側面の両者を持つが、最近の事例を題材として、材料・構法の発展や、シミュレーション技術の活用が何を可能にしてきたか、また、デザインにおける論理性と感性の関わり方などが議論された。

宇野准教授

■ 宇野　享 准教授（工学部建築学科）

2007年度 日本建築家協会賞を受賞

ぐんま国際アカデミー

２月９日㈯、建築家会館（東京都渋谷区）で、㈳日本建築家協会主催2007「日本建築大賞」「日本建築家協会賞」公開審査が開かれた。その審査に宇野准教授デザインの「ぐんま国際アカデミー」が日本建築大賞候補の７点に選出され、参加。プレゼンテーションおよびヒアリング審査等の結果、見事「日本建築家協会賞」に輝いた。

■ 山内五郎 教授（情報学部情報デザイン学科メディアデザイン専攻）

「超撥水材料を開発」日刊工業新聞（12/4）掲載

『企業との研究グループで、可視光応答型の光触媒を添加した超撥水材料を開発した。紫外線（UV）照射がない屋内でも蛍光灯の光などで光触媒機能を発揮する。親水性が高い光触媒を混合した超撥水材料は珍しく、可視光応答型ではこれが初めてという。光触媒により抗菌性などを備え、超撥水性により汚れにくいため、病院の手術室などでの利用が期待できる。』と山内教授の研究が紹介された。

■ 田中秀和 教授（情報学部情報システム学科コンピュータサイエンス専攻）

岐阜工業高等専門学校の外部評価委員長を務める

２月５日㈫、岐阜工業高等専門学校自己点検評価に関する外部評価委員会との意見交換会が開かれた。教育点検評価の実務に詳しく、また高専の内情にも精通している田中教授はその外部評価委員の委員長を務めた。

岐阜高専は平成15年度に日本技術者教育認定機構（JABEE）本審査を受審し認定された。有効期限（５年間）が平成19年度で満期を迎え、平成20年度にまた新たに受け直す予定である。田中教授はこれまでにJABEEの審査を４回、受審（本学工学部都市環境デザイン学科のプログラム）で１回の経験がある。

岐阜高専はJABEEをスムーズに通すために「形式的（儀式的）」ではない「実質的」な外部評価を田中教授たち外部評価委員に期待している。

グローバル化研究会で講演

３月11日㈫、名古屋市工業研究所で㈶名古屋市工業技術振興協会主催のテクノプラザナゴヤ合同研究会が開かれた。

その合同研究会の「グローバル化研究会」で技術士（情報工学部門）でもある田中教授がグローバル化研究会のメンバーを中心とする、名古屋市内の中小企業経営者およそ20人の参加者を相手に、「国際的に通用するエンジニア教育の潮流と技術者倫理教育の重要性について」と題し講演。グローバルエンジニアの教育のあり方について、そして技術者倫理教育の重要性について、幅広く議論を展開した。その後活発な質疑応答があり、議論が止まらず、定刻になってやむなく打ち切らざるを得なくなるような盛会であった。

トコトン先生 大活躍！

■ 川戸和英 教授（情報学部情報デザイン学科メディアデザイン専攻）

日本広報学会中部部会講演会を２年ぶりに実施！

昨年６月に日本広報学会理事に就任した川戸教授は、同学会事業委員として約２年間開催されなかった中部部会の講演会を、３月４日㈫名古屋市で㈳中部産業連盟共催で開催させた。

この講演会は２部構成で開催された。第１部の基調講演に、トヨタ自動車㈱広報部長小西工己氏を招き、世界企業トヨタの広報活動の全貌を紹介してもらった。第２部の懇談会では、小西部長はじめ、静岡文化芸術大学副学長上野征洋氏、愛知学院大学大学院教授小林貞夫氏にも加わってもらい、広報活動発展のための課題について会場も含め活発な議論が展開された。

川戸教授は、中部部会講演会の企画、人選と講演・登壇交渉、学会本部との調整、そして当日の司会進行、懇談会モデレーターなどを務めた。

■ 佐藤壮一郎 准教授（教養部保健体育教室）

日本代表コーチ 佐藤准教授に聞く「中東の笛」きっかけに大注目
ハンドボール 北京オリンピック予選やり直しの裏側

佐藤 准教授㊧

中東の笛と呼ばれる不可解な判定を理由に北京五輪予選の再戦が決まった。その試合にコーチとして佐藤准教授が参加した。10数年前、現役日本代表選手時代、アトランタ予選（1996年）で中東の笛を実際に経験している。のち、オリンピック予選は中東の笛の影響を受けないように、シドニー（2000年）、アテネ（2004年）と日本で開催し、同じ時期に国際ハンドボール連盟（IHF）の会議も日本で開催していた。つまりIHF幹部を日本に招集し、アジアハンドボール連盟（AHF）の横暴な大会運営を監視できるように、日本ハンドボール協会（JHA）がコーディネートしていたのだ。今回の北京五輪予選はIHF国際会議こそ同時期に開催することはできなかったが、IHFの競技委員長を招き、さらにIHFからドイツ人審判を派遣させ、中東の笛を対策していた。

そして迎えた９月１日㈯、北京五輪予選（豊田）の開幕戦「韓国VSクウェート」。中東の笛がヨルダン人審判によって吹かれた。IHFが指示したドイツ人審判の起用をAHFが無視したのだ。同じ日の同じ場所「日本VSアラブ首長国連邦」戦のため、会場にいた佐藤准教授はそのまさかの光景に目を疑った。選手たちは試合に集中するため、その「韓国VSクウェート」戦はライブで見ないよう、監督から言われていた。日本選手は、韓国の完敗を聞き、中東の笛の疑惑を感じながら、アラブ首長国連邦との初戦に勝利した。その夜、ミーティングで、「韓国VSクウェート」のVTRで見て、呆然としていたという。まさか日本開催のオリンピック予選でやられるとは。

９月３日㈪「日本VSクウェート」。ハンドボールは試合開始の少し前に審判が発表される。「イラン人審判」だ。この審判は他国開催の国際大会で重要なクエート戦は、いつも担当し、中東の笛でお馴染みの審判であった。勝負所で主力選手を退場させたり、勝負に関係ない所で日本側に有利な笛を吹く、功名かつ卑劣なテクニックを持ち合わせていた。佐藤准教授は試合直前のミーティングで選手に言った「アテネ五輪予選から応援団として大同工業大学のハンドボール部と吹奏楽団が、また今回は大同高校男女のハンドボール部も引き連れて、応援に来てくれている。応援のリーダーを務めている寛敏から『僕たちはどんな笛を吹かれようとも、諦めず最後まで応援し続けます。』と電話があった。俺たちもどんなことがあっても諦めることなく最後まで戦おう」と。

（応援リーダーの佐藤寛敏さん（00M）はアテネの時は大同工大ハンドボール部員（１期生）で、今は大同高校ハンドボール部（全国選抜大会出場）の顧問（教員）を務めている。）

日本代表チームは最後まで戦い抜いた。「彼らはすばらしかった」と佐藤准教授は言う。

北京五輪予選後、日本と韓国が今回の現状をIHFに報告した。それは再戦を提訴するものではなかったのだが…再戦決定。スポーツの世界ではあり得ない出来事に佐藤准教授は勿論、日本国中が驚き、マスコミが注目した。

１月30日㈬国立代々木第一体育館（東京）、再戦。試合前のロッカー室、コーチングスタッフ・選手全員が泣いていた。決戦の重さをチーム全体がかみしめた瞬間だった。結果は怒涛の猛追も及ばず、韓国に惜敗。しかしその日本代表選手の戦いぶりに１万人を超える観客からは惜しみない拍手が送られた。佐藤准教授はファンが納得してくれていることを肌で感じたという。

佐藤准教授の今後は、大同工大ハンドボール部を再建する。目標は2003年に優勝して以来、成績を残せていない「東海春季リーグ戦・西日本インカレ・東海秋季リーグ戦・全日本インカレ」の４大大会での優勝だ。

またJHAからは、ヘッドコーチとしてU-24日本代表男子チームを前回世界学生選手権で5位に導いた実績から、日本ハンドボール界初、世界大会でのメダル獲得を期待されている。

最後に、日本のエース「宮崎大輔選手」は大同応援団のハンドボール界では珍しい、トランペット等を使ったアップテンポな応援がお気に入りだと佐藤准教授は話してくれた。再戦の時、応援に来てもらえなかったことを悔やんでいたそうだ。

元気印の卒業生 ⑭

工学部機械工学科（平成4年3月卒業）

長谷川昌之さん（88M）にインタビュー

脱サラし、シルバーアクセサリー制作の道へ

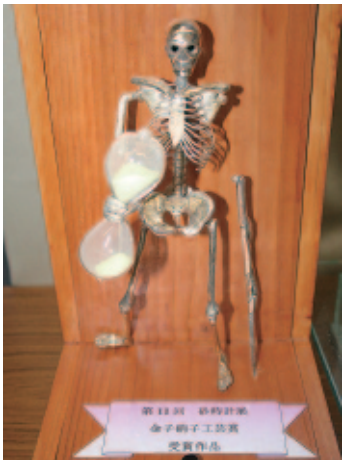
ぼんぼん時計と短波放送と黒電話、そして伊勢湾台風で浸水したあとがくっきり残る柱…レトロでお洒落な工房は、時間を忘れさせてくれる落ち着きの空間だった。

■シルバーアクセサリー制作を本格的に始めたきっかけは…

８年ほど前から趣味として制作していたが、13年間勤めたメーカーを退職した際、自分は何ができるか、また何がしたいかを改めて考える時間ができた。その時にシルバーアクセサリーのグループ展がノリタケの森ギャラリーで開かれ、私も誘われ参加。出展した自分の作品が高い評価を得た。それが自信となり、本格的に始動することに。そして、平成18年12月に現在のギャラリー＆教室　工房「“and you”安寿」をオープンした。

■工房での活動を教えてください…

自主制作は勿論だが、その他に銀粘土教室も開いている。１回5,000円程度（材料費含）で作品が完成するまでサポートするスタイル。昨年末、旦那様にクリスマスプレゼントとして、手作りのシルバーリングを贈りたいと12／17㈰に女性のお客様が教室を訪れた。しかも平日は仕事があるため、今日１日で作り上げたいとのこと。私は12時から18時まで６時間、付きっ切りでサポートした。お客様自身が作品に納得してもらうことは勿論だが、私自身も納得できるものを作らせてあげたいと思っている。大変喜んでいただき、私もうれしかった。しかし当然ながら赤字…（笑）。でも今はお金よりも、人との出会いがうれしい。展覧会等で全く見ず知らずの人が私の作品を買ってくれる、しかも喜んで話しかけてくる、この瞬間はやっぱりうれしい。



■これからの目標、夢はなんですか…

私の工房はDITに近いので、平成19年５月にフラっと大学祭を見に、自転車でキャンパスを訪れた。その時卒業研究指導教員としてお世話になった、西堀賢司教授（工学部ロボティクス学科）にお会いすることができ、現況と将来の夢を話した。それは作品を量産できる鋳造を工房に取り入れること。西堀先生はすぐ鋳造に詳しい青山正治教授（工学部機械工学科機械工学専攻）に私を紹介してくださった。それから何度か青山先生自ら工房まで足を運んでくれ、アドバイスいただいている。今現在青山先生監修のもと、昔ながらの方法、蒸気鋳造を用いて、低コストで設備を整えている。全工程を私の工房で、しかも手作りによってできた多くの作品を通じて、もっとたくさんの人と出会い、喜んでもらうことが私の夢です。あと黒字に…（笑）。

■15年ぶりのDITキャンパスの印象は…

迷子になった。青山先生から食堂横に本が販売されていると聞いたので、行ってみると食堂だったところは燃料電池研究センターに…。本当にきれいになっていて、衝撃を受けた。

■最後に一言…

母校に帰れば、先生がいる。先生の存在は、私（卒業生）の居場所となる。母校・大同工業大学の存在を再確認することができた。

青山教授㊨

SilverKnights
ホームページへ

http://www6.ocn.ne.jp/~s-knight/index.html

ギャラリー＆教室　工房「“and you”安寿」
名古屋市南区鳴浜町２丁目39番地

告知：５月１日㈭～７日㈬
栄のマルエイスカイル8Fにて二人展を開催

元気印の卒業生

大学院工学研究科修士課程機械工学専攻（平成18年3月修了）

石川善裕さん（西堀賢司研究室）

日本ロボット学会誌に学術・論文が掲載される

西堀賢司教授（工学部ロボティクス学科）指導のもと、石川さん（04MM）の論文「機械的位置エネルギーを利用した空中ブランコロボットの開発」が西堀教授と連名で日本ロボット学会誌（2008年３月号）に掲載された。遊び心から開発を始め、実験と理論を結びつけて論文となり、学会誌掲載にまで至った経緯は実に珍しく面白い。

また論文の最後に、『実験装置の製作に協力していただいた㈱ナガラおよび半田工業高校教諭の圖目和也氏（98M）と大同工業大学ロボット研究部の近藤弘憲君（MM07）に感謝する。』と研究室の先輩と後輩に感謝の意を述べている謝辞もあり、うれしい。

石川さんは学部時代、半田市立博物館の「からくり人形研究員」として、からくり人形の復元ボランティア活動に貢献。またからくり人形の調査・研究を、2003年８月半田市立博物館年報で13ページにまとめて発表するなど活躍。平成20年４月からは愛知県立名南工業高等学校の教壇に立つ。

なお、この空中ブランコロボットは2005年国際博覧会「愛・地球博」やロボットミュージアムin名古屋での常設展示を始め、今もなお、さまざまなイベントで活躍し、注目を浴びている。

情報学部情報学科（平成19年3月卒業）

大嵜雄次さん（山内五郎研究室）

2007フレッシャーズ産業論文コンクールで優秀論文に選ばれる

日刊工業新聞社は経済産業省、日本商工会議所、日本経済団体連合会などの後援を得て、2007年度の新入社員を対象とした第30回フレッシャーズ産業論文コンクールを実施した。このコンクールは「あすの企業を考える」をテーマに毎年実施。今回はⅠ部、Ⅱ部あわせて155社、1131編の応募があった。そのなかで、DIT情報学部情報学科を平成19年３月に卒業し、現在㈱中央図研に所属している大嵜さん（03B）が見事14編の優秀論文に選ばれた。この記事は11月26日㈪の新聞紙面に大きく掲載された。

大嵜さん（中段左から4人目）

情報学部情報学科（平成19年3月卒業）

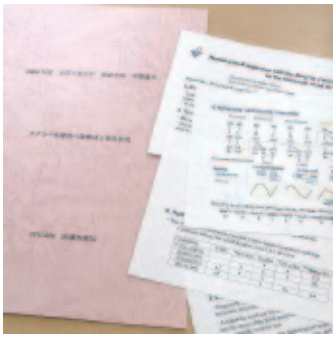
武藤英理加さん（浅井淳研究室）

卒業研究が国際会議で発表へ

武藤さん（03B）の卒業論文「カタカナ短縮語の語構成と使用状況」を基にした研究発表が審査の結果、第12回東アジア関連言語処理会議にて採択されました。武藤さんは日本語の名詞の構造において新しい傾向がみられることに着目してくわしく調べました。日本語の音のリズムは“デパ+地下”（デパート+地下階）のように２拍を単位とする構造が基本です。これは“名古屋駅”を略す際に“な+えき”ではなく“めい+えき”とわざわざ２拍に読み替えてそろえるほど自然で安定した性質です。ところが近年“メタボ”（メタボリック症候群）など３拍の語が増えています。武藤さんは特に若い女性を読者とする場合、“コーデ”（コーディネート）のように新しい形が多いことに気がつき、実際の文例を収集、分析しました。

研究室の仲間と（手前、武藤さん）

12月28日㈮29日㈯、台湾で国際会議が開かれ、共同研究者として卒業研究指導教員の浅井淳准教授（工学部ロボティクス学科兼担）が、さらにどのような音の並び方がどれだけ起こりやすいかという音韻的メカニズムを明らかにし、「Phonotactic sequences with the



binarity constraints in the trimoraic word structure」という題で発表しました。会場となった成功大学は日本でも通用しそうな名前ですが、17世紀台湾の英雄で実は日本生まれの鄭成功にちなんだ名称です。

武藤さんは卒業後、名古屋の企業で元気に総務の仕事をしています。情報学部情報学科ソフトウェア活用コース（2004年度にメディアコミュニケーションコースへ変更）は、長らく工業教育を担ってきた本学でははじめての文系コースですが、着実に成果をあげています。

研究室 NEWS

鈴木桂輔研究室（工学部機械工学科機械工学専攻）
井田雄也さん（MM06）
学生自動車研究会功労賞を受賞

㈳自動車技術会中部支部の下部学生組織、学生自動車研究会（学自研）において、平成19年度学生委員会委員長に抜擢された井田さん。在任１年間の目標は「教員中心になってしまっている学自研をもう一度、学生組織として立て直す」だった。年間行事の研修会・勉強会・フォーミュラ試走会等、徐々に学生から企画立案等アクションをかけるスタイルに取り組んだり、初の全国学自研企画も実施した。その活動の集大成は、２月２日㈯DITで開催した「研究発表会」だ。昨年までの講演形式をポスターセッションに変え、聞き手が質問しやすい全員参加型の発表会を展開した。

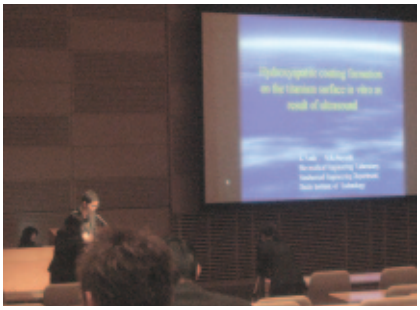
井田さん（右から２人目）と鈴木准教授（左から２人目）

その結果、例年にない盛り上がりを見せ、会は大成功。井田さんのチャレンジが高い評価を得た。

これら１年間の積極的な活動とその活躍が学自研の発展に繋がったとして、㈳自動車技術会中部支部より功労賞を受賞。「鈴木先生を始め、研究室のメンバー等、周囲の人たちのサポートがあったので、１年間乗り切ることができました。」と彼は振り返る。

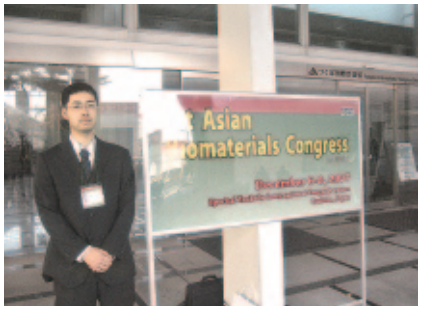
また、鈴木研究室には㈳自動車技術会会員の増強等に貢献したとして、感謝状が授与されている。

小林正典研究室（工学部機械工学科先端機械工学専攻）
野田恵介さん（MM06）
第１回 アジア統一バイオマテリアル会議（1'st Asia Biomaterials Congress）で論文発表



12月６日㈭～８日㈯、つくば国際会議場（茨城県つくば市）で第１回アジア統一バイオマテリアル会議（1'st Asia Biomaterials Congress）が開催された。これまでアジアには、生体材料に関する２つの会議（Asian Symposium on Biomedical Materials, ASBM と Asian International Symposium on Biomaterials, AISB）があり、長い間それぞれの立場を守ってきたが、最近の諸情勢を考慮した統一機運を受け、2006年開催のASBM７とAISB５において、2007年の合同開催が合意され、第１回を日本で開催することになった。

この会議に野田さんが参加。オーラルセッション（英語）にて表題「Hydoxyapatite Coating Formation on the Titanium Surface in vitro as a Result of Ultrasound Waving」の研究内容を発表した。



横山弥生研究室
（情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻）
大塚礼穂さん（MB07）
工学部ロボティクス学科とコラボレーション ロゴマークを制作

大塚さんがロボティクス学科のロゴマークを制作した。

ロボティクス学科の教員からは、オリジナリティに富んでいて、視認性も高い良いデザインだとの評価を得、ホームページや各種イベントのポスター、チラシ、名刺など広く活用されることとなった。

中日新聞「笑顔！」掲載（2／29）

昨年12月と今年２月にDITと名古屋市南区の協同で開催した公開ものづくり講座「手作り照明器具で照らす明るい街」。講師を横山弥生教授（情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻）、アシスタントを大塚礼穂さんら研究室のメンバーが務めた。その時の様子を中日新聞が取材。『大学院でデザインを学んでいますが、おばあちゃんが作った和の風合いや、子どもの斬新さなど発想に教わることが多かったです。』と彼女は話した。

取材を受ける大塚さん㊨

研究室 NEWS

宇野享研究室（工学部 建築学科）

金子貴敏君（04A）

卒業設計日本一決定戦で全国12位に

３月９日㈰、せんだいメディアテーク・仙台国際センターに1000人近い学生が集まり、「せんだいデザインリーグ 卒業設計日本一決定戦2008」が開催された。これは都市・建築デザインのプロを目指す全国の学生の卒業設計を集め、日本一を決める大会である。

この大会にDIT建築学科卒業研究発表会2007で金賞に輝いた金子君がチャレンジした。彼は卒業設計を学内だけではなく、学外の評価も聞いてみたい、自分の力を試してみたいという一心でエントリーを決めた。同じような想いの学生が一堂に会した会場は熱気に包まれていた。

まずは上位100点を決める予選審査が行われ、突破。次にファイナル（公開審査）に残れる10人の発表。50位から大型スクリーンでカウントダウンがはじまり、第12位に金子君が映された。「びっくりした。もう少しでファイナル進出だったのに…でもやっぱりうれしい。自分自身良くやったと思えます！」とこの結果を通して、４年間のDIT生活を振り返っているようだった。そんな彼は４月より設計事務所で働く。

授業でプレゼンする金子君

卒業設計で作成した模型

堀尾吉巳研究室（工学部電気電子工学科）

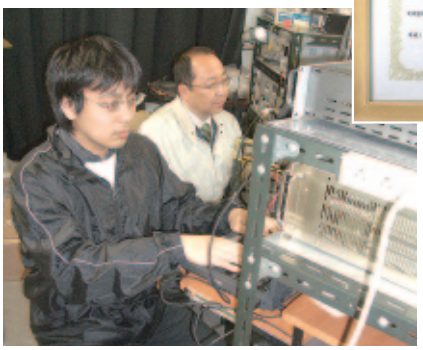
酒井大輔さん（ME07）

第７回日本表面科学会中部支部研究会で講演奨励賞を受賞

12月15日㈯に開かれた、第７回日本表面科学会中部支部学術講演会に堀尾研究室の大学院生５人が参加した。名古屋大学を始めとする国立４大学とDITを含めた私立２大学から21人が集まったこの講演会で、酒井さんが発表した「RHEED及びMEEDのロッキングカーブ解析」がみごと講演奨励賞に選ばれた。

「この受賞は、すばらしい研究テーマを与えてくださり、講演会直前まで熱心に指導してくれた堀尾先生と研究室の仲間のおかげです。」と彼は言う。聞くと、堀尾研究室には６人の大学院生と１人の研究生が在籍していて、常にその７人で切磋琢磨して研究に取り組んでいるらしい。「７人それぞれが個人で研究していますが、誰かが行き詰った時はみんなで助け合っています。また仲間は良きライバルでもあるため、誰かが徹夜でがんばっていると僕も負けてはいられないと自分のモチベーションを奮い立たせています。」と続けた。

さらに「今回のプレゼン時もかなり緊張しましたが、会場にいる先生と仲間の顔が見えて落ち着きました。この受賞はチーム堀尾研究室の受賞です。本当に尊敬できる先生と仲間に恵まれ、楽しく研究に取り組めていることがうれしいです。」と終始笑顔で話してくれた。



坂井さん㊧と堀尾教授㊨

川戸和英研究室
（情報学部情報学科メディアコミュニケーションコース）

半田市の「ミツカングループ本社」見学

12月６日㈭、実社会体験第一の川戸研究室３年生のメンバー８人が、半田市の大手酢メーカー、ミツカングループ本社を見学した。

同社の執行役員、マーケティング部長の武本氏と川戸教授が日本広報学会の縁で知り合いというところから見学が実現したもの。

まず、江戸時代の製造工場をそのまま利用した「博物館・酢の里」を見学。強烈な匂いに圧倒されながら、酢ができるまで、また、昔の酢の作り方を見学した後、本社最上階の会議室で、マーケティング部コミュニケーション戦略室の山田晴義主任から、同社のマーケティング、広告戦略のレクチャーを受けた。学生たちからも積極的に質問が飛び出し、中には武本氏をして「なるほど」と言わしめた商品企画まで飛び出した。

同社のマーケティング、広告戦略を直接聞くことができた学生たちは、教室の講義では得られない体験をして、同社を後にした。

佐藤壮一郎 准教授（教養部保健体育教室）

公開講座「ボールであそぼう！」

12月９日㈰、公開講座「ボールであそぼう！」をDIT石井記念体育館で開いた。講師が2007年１月よりハンドボール日本代表チームのナショナル・コーチを務めている佐藤准教授ということもあり、40人を超える小学生の応募があった。

さすが小学生から成年まで、一貫した指導方法の開発・研究を行っている佐藤准教授、始めに「コミュニケーション・チャレンジ・リーダーシップ」の３つの目標を掲げた後、いきなり「中年の佐藤壮一郎です！明るく楽しく元気良く、一緒に遊びましょう！」と大きな声で自己紹介。会場の雰囲気が一気に賑やかになり、テンポ良く講座をスタートさせてみせた。

さまざまな運動を展開したこの講座は、佐藤准教授の「先ずやってみよう！」という掛け声から始まるチャレンジスタイル。子どもたちの「できた!!できた!!」の歓喜の声と佐藤先生の「OK!!すばらしい!!」の賞賛の声が体育館に響き渡っていた。

佐藤准教授

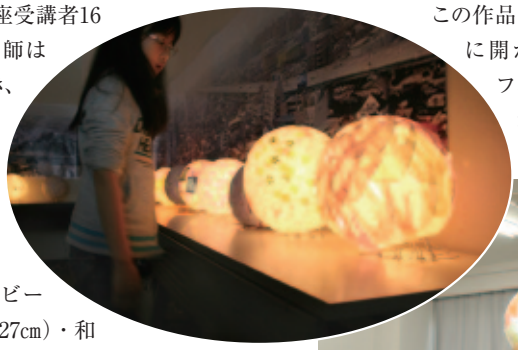
休憩中の親子

楽しい運動を通して「チャレンジ」と「気づき」を繰り返しながら、自己の可能性を刺激し続けた、みっちり３時間のスポーツ系講座となった。

横山弥生 教授（情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻）

手作り照明器具で照らす明るい街「ものづくりの南区」事業 in 大同工業大学

２月23日㈯、南区100周年事業ものづくり公開講座「手作り照明器具で照らす明るい街」をDIT（南区滝春町）で開催した。今回で２回目となるこの講座は、来年100周年を迎える南区のプレイベントとして開催、７歳から87歳までの幅広い講座受講者16組を集めた。講師は前回に引き続き、横山教授が、またアシスタントを横山研究室の学生９人が担当した。



今回の講座はビーチボール（直径27cm）・和紙・ボンド等、どこでも手に入る手軽なものを使って世界にひとつだけの照明器具（ライトシェイド）を制作した。

制作後、ひとつずつ講評した横山教授はそれぞれの想いが詰まった作品を前に嬉しくなり感動「すばらしい！」と声を上げた。また講座受講者からも「ものづくりの楽しさを思い出した！」「自分でつくった照明器具ができて感激です！」等といった声が寄せられた。

この作品の一部は、３月15日㈯に開かれた南区魅力発見フェスティバルで展示された。

地域の小学生、中学生がDITで学習

■名古屋市立桜山中学校　DIT体験学習

西堀賢司教授（工学部ロボティクス学科）

■名古屋市立当知中学校　DIT総合学習

堀内将人教授（工学部都市環境デザイン学科）

■名古屋市立柴田小学校　DITバリアフリー環境見学

DITを盛り上げよう!

第一回 DIT成人式「二十歳、おめでとう！」開催

DITキャンパスライフを楽しんでもらいたいという一心から、年末に突如企画され、１月16日㈬、学生食堂で開催された、澤岡昭学長主催・同窓会協賛の「DIT成人式」に新成人84人、同窓会役員・教職員およそ20人が集まった。

まずは、学長が「二十歳、おめでとう！学生生活をおもいっきり楽しんでください！」と祝辞を述べられ、ソフトドリンクで乾杯！立食パーティ形式で会が始まった。

中盤には、DIT吹奏楽団が演奏を、また元応援団団長の奥村博司理事長が熱いエールを送り、終盤のビンゴ大会へ。iPodやデジカメ等、豪華賞品13点が用意された。

最後にビンゴ大会でみごと１番ビンゴ、iPodをGETした情報学部の新成人が二十歳の誓いで一言「彼女をつくりますっ」。

こうして記念すべき「第一回DIT成人式」は大盛況のうちに終了した。

井上茂樹副学長のアンデス音楽の夕べ

DITのクリスマスを彩る、井上副学長（情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻教授）による「アンデス音楽の夕べ」が12月20日㈭、A棟14階ラウンジで開かれた。４回目となる今回は50人を越える教職員・学生が集まった。昨年に引き続き、国際コンクールグランプリの実績を持つギタリスト 大嶋芳さん（学習支援センター）とのジョイントコンサートを展開。全14曲、たっぷり２時間演奏を披露し、観客を魅了した。

井上副学長が演奏する笛サンポーニャは、楽譜がないため、CDの音源から音を拾い、独自に演奏している。１曲を通して演奏できるようになるまで、１年半を要した曲もあるとのことだ。

大矢郁夫大学事務部長の手打ちそば

２月22日㈮、大矢事務部長が学生食堂をそばの収穫祭と称してジャック、この日限定の「大矢の手打ちそば屋」をオープンした。そば職人の指導のもと、そば打ちを披露、見事にそばを打って見せた。先着50食分用意したもりそばは、集まった教職員・学生・売店のおばちゃんたちによって瞬く間に完食。楽しいランチタイムを演出してくれた。

じつは昨年６月よりそば栽培を始め、そばの実からすべて手作りを試みたが、残念ながら肝心な実はすずめに食われ今回は収穫するまでに至らなかった。次の計画は、５月の宴祭（大学祭）で「大矢の手打ちそば道場」をオープンさせると準備を進めているが、果たしてうまくいくのでしょうか?

DIT スケジュール

5月
- 6㈫ 授業日（振替休日）
- 10㈯ 開学記念日
- 19㈪ 第３回就職ガイダンス：３年次生（～22）
- 25㈰ 大学祭（仮装行列）
- 26㈪ 第４回就職ガイダンス：３年次生（～28）
- 29㈭ 大学祭（前夜祭）
- 31㈯ 大学祭（本祭）　春季オープンキャンパス

6月
- 1㈰ 大学祭（本祭・後夜祭）　春季オープンキャンパス
- 9㈪ 第５回就職ガイダンス：３年次生（～12）
- 11㈬ 前期学生代表者会議
- 14㈯ クラブ対抗ボーリング大会
- 25㈬ 学内企業説明会：４年次生（～27）

7月
- 7㈪ 第１回就職ガダンス：２年次生（～９）
- 11㈮ 第６回就職ガイダンス：３年次生（～18）
- 21㈪ 通常期末試験（～25）（海の日）
- 27㈰ 夏季オープンキャンパス
- 28㈪ 特別期末試験（～８／１）

やるじゃんトピックス!!

国際交流講演会

～ガウディ建築とカタロニア地方～

3月15日㈯、DITにスペイン・カタロニア工科大学建築学科からジョアン・メルカデ・ブルリェス教授を講演者としてお招きし、「国際交流講演会～ガウディ建築とカタロニア地方～」を開いた。

講演会は、五島利兵衛教授（工学部建築学科）の通訳のもと、ガウディの協力者ジュジョールの業績とカタロニアに古くから伝わる建築の伝統的文化と技術を紹介した。

講演会終了後は、ジョアン・メルカデ・ブルリェス教授を囲んで歓迎懇親会を行った。

工学部

機械工学科＆情報機械システム工学科 合同特別講演会

12月19日㈬、機械工学科および情報機械システム工学科の3年生を中心に、150人を超える学生がDITゴビーホールで開いた特別講演会に集まった。講師は、旋盤技術で2003年「現代の名工（名高い職人）認定」（厚生労働省認定）、2004年「文部科学大臣賞受賞」、2005年「黄綬褒章勲章受章」の北九州マイスター（巨匠・名人）生野保幸さん。「ものつくりの出会いと自己実現」と題し映像を交えて約45分間講演した。

参加した学生からは、「就職活動に活かす」「今日聞いた言葉をこれから出て行く社会でも大切にしたい」「毎日のモチベーションを上げるヒントを得た」「今から行動しようという気になった」等、多くの感想が寄せられた。

講演終了後、旋盤を操り制作した、複雑形状で高精密な作品を手に取りながら、さまざまな質問をする学生たちに生野さんは取り囲まれていた。

平成19年度〈後期〉クラブ活動成績結果

弓道部
- 弓道部東海学生弓道リーグ戦（9/30～11/10）　4戦全勝（4部昇格）

硬式野球部
- 秋季リーグ戦（9/1～10/25）　4部4位

サッカー部
- 愛知学生サッカーリーグ戦（5/27～10/14）　2勝7敗　8／13位

自動車部
- 全日本学生ドリフト王座決定戦　東大会（8/8～11）　ベスト24

スキー部
- 東海学生基礎スキー選手権大会（2/25～3/3）　新人戦総合5位／酒井将嗣（M06）

バドミントン部
- 東海学生バドミントン選手権大会（11/26～12/1）　4部残留

バレーボール部
- 全日本バレーボール選手権大会（12/10～13）　出場

ハンドボール部
- 東海学生ハンドボールリーグ戦　秋季（9/2～30）　4位　ベスト7／石塚大樹（04B）
- 西日本学生ハンドボール選手権大会　全日本ハンドボール選手権大会出場権獲得
- 全日本学生ハンドボール選手権大会　ベスト16

レーシングカート部
- 瑞浪シリーズ第4戦（8/25・26）　決勝17位／中嶋和人（05M）
- 全日本併備地方戦FS-125クラス 第4戦（12/1・2）　決勝3位／古屋辰典（04M）

陸上競技部
- 東海学生駅伝大会（12/1・2）　区間9位／藪下卓弥（M07）

漕艇部
- 名古屋レガッタ（8/5）　ダブルスカル3位

ラグビー同好会
- 東海学生ラグビーフットボールリーグ戦（9/16～11/11）　1勝3敗1分

ロボット研究部
- ロボゴング7（1/13）　SRC部門　優勝／加藤貴也（R07）　3位／西岡範晃（04J）
- 第13回ROBO－ONE大会（3/22・23）　近藤科学賞・ツクモロボット王国賞／青木康弘（MM06）、HPI賞／西岡範晃（04J）、加藤貴也（R07）

※成績結果報告書提出分から抜粋して掲載しています。

就職Topics キャリアセンター
就職率100%維持のために 精力的な取り組みを！

キャリアセンターの新たなる取り組み

社会で活躍できる『大同工大技術者』の養成のために

近年、新規学卒者の就職後の早期離職率が高く問題となっている。これは学生がしっかりとした「職業観」を持たず就職することが要因の一つであると指摘されている。そこで本学では、「職業観」の涵養のための「キャリア教育やインターンシップの一層の充実」を進めている。

また、就職活動については、早期に内定を得られる学生と、なかなか内定を得られず就職活動が長期化する学生との「二極化」の傾向が見受けられる。この長期化は、通年採用等を導入する企業の増加による就職機会の拡大という喜ばしい要因がある一方で、学生本人の「職業意識の欠如や希望企業を絞りきれない」ことも大きな要因であると考えられる。

本学でもこのような実態から、大学の「教育目標」に沿った「技術者の育成」を主眼に「社会が求める人材育成」のための「キャリア支援」の充実を図っている。

1／17㈭、図書館4階大会議室で、初の試み「大同特殊鋼関連企業 会社説明会」を開いた。
19社の企業を集め、133人の学生が参加した。

本学の新たな取り組みと社会環境変化への対応

(1)「職業観」養成の実践として、**「インターンシップ」**の実施があげられる。

これは学生が在学中に、自らの学科、専攻を活かした将来のキャリアに関連する職業体験を、企業において一定期間行う教育制度である。本学では、キャリア支援の重要な取り組みのひとつとして平成18年度から実施してきた。

また、インターンシップの前段階として「先ず企業を見る」ことの必要性を鑑み、**「企業見学会」**の実施も平成18年度より実施している。

企業見学会では、「就職観」や「労働観」（働く現場の実情を知る）を養い将来の「企業選択」をスムーズに行えることを目標としている。

【インターンシップ参加学生数推移】

・平成16年度：10名、平成17年度：22名、平成18年度：90名、平成19年度：60名

【企業見学会参加学生数と企業】

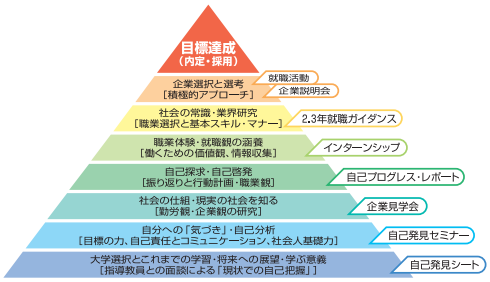
・平成18年度：参加学生103名（企業：トヨタ自動車、名古屋電機工業、ヤマザキマザック、川崎重工業、大林組）

・平成19年度：参加学生数85名（企業：トヨタ自動車、大同特殊鋼、ヤマザキマザック、大林組、イチビキ、コカ・コーラ、名港管理組合）

2／5㈫～8㈮、企業説明会を初めて、DIT石井記念体育館で開いた。4日間で381社の企業を集め、延べ1555人の学生が参加した。

(2)キャリア支援の初歩段階として、「自分への『気づき』」を促進するため、平成19年度から**「自己発見セミナー」**を1年次の後期に導入した。このセミナーは、入学時に行う**「自己発見シート」**と2年次で実施する**「自己プログレス・レポート」**（自己啓発とキャリアデザイン）の間で、「働く意義」「社会人としての基礎」（経済産業省のいう『社会人基礎力』）を学ぶ過程と位置付けている。

(3)本学における「キャリア形成」と「キャリア支援」の仕組み



人　事

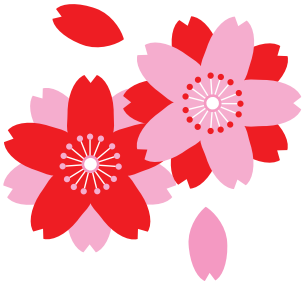
●就　任（H20.4.1）
水澤　富作（大同工業大学 副学長）

●退　職
〈教育職員〉（H20.3.31）
高藤新三郎（工学部 機械工学科 教授）
太田　福男（工学部 建築学科 教授）
ハロルド J パワーズ（教養部 外国語教室 教授）
田中　裕巳（教養部 教職教室 教授）
和田　　均（工学部 機械工学科 教授）
瀬尾　文彰（工学部 建築学科 特任教員）
松居　正夫（工学部 機械工学科 特任教員）
〈事務職員〉（H20.3.31）
山内　洋至（教育学生支援部 学生室）
伊藤　幸生（大学事務部 研究支援・産学連携共同研究センター事務室）
福井　和雄（法人本部 通信・情報システム室）
藤墳　照実（大学事務部 図書館事務室）
後藤　輝巳（法人本部 総務部 人事室）
〈嘱託職員〉（H20.3.31）
稲生　忠夫（情報学部 情報学科）
船橋　仁奈（工学部 建築学科）

●採　用
〈教育職員〉（H20.4.1）
平　　博仁（工学部 機械工学科 教授）
山田　喜一（工学部 機械工学科 教授）
町屋修太郎（工学部 機械工学科 講師）
伊藤　昇一（工学部 機械工学科 特任教員）任期：H20.4.1～H21.3.31
中村　　肇（工学部 機械工学科 特任教員）任期：H20.4.1～H21.3.31
太田　福男（工学部 建築学科 特任教員）任期：H20.4.1～H21.3.31
ハロルド J パワーズ（教養部 外国語教室 特任教員）任期：H20.4.1～H21.3.31
田中　裕巳（教養部 教職教室 特任教員）任期：H20.4.1～H21.3.31
〈事務職員〉（任期：H20.4.1～H21.3.31）
松尾　重徳（大学事務部 研究・産学連携支援室 主任部員 特任職員）
〈嘱託職員〉（任期：H20.4.1～H21.3.31）
境谷　慎吾（情報学部 情報デザイン学科）
勝島　真悟（情報学部 情報デザイン学科 兼 情報学部 情報学科）
柳澤　宏江（工学部 建築学科）
〈特別嘱託職員〉（任期：H20.4.1～H21.3.31）
太田　幸一（キャリアセンター キャリアアドバイザー）
中井　靖男（学習支援センター シニアアドバイザー）
鰐部　吉基（学習支援センター）
堀口　通安（高大連携推進アドバイザー）

●異　動
〈事務職員〉（H20.4.1）
田中　久博（法人本部 本部長付）
大矢　郁夫（大学事務部長）
片岡　智幸（大学事務部 学生室長）
佐藤　　匠（総務部 総務室 主任部員）
神谷登司雄（大学事務部 学務室 主任部員）
木村　雅美（法人本部 経理室）
小堺　貴夫（法人本部 入試・広報室）
伊藤　雅士（法人本部 入試・広報室）
堀木　俊宏（法人本部 入試・広報室）
松尾　恵子（大学事務部 キャリア支援室）
肥田　　聡（大学事務部 キャリア支援室）
〈嘱託職員〉（H20.4.1）
鈴木　政宏（大学事務部 学生室）

●昇　任
【法人本部・大学】
〈教育職員〉（H20.4.1）
坂倉　守昭（工学部 ロボティクス学科教授）
藤本　　博（情報学部 情報システム学科教授 併任 情報学部 情報学科教授）
横山　弥生（情報学部 情報デザイン学科教授 併任 情報学部 情報学科教授）
小西　章典（教養部 外国語教室 准教授）
斉田　浩見（教養部 物理学教室 准教授）
佐藤壮一郎（教養部 保健体育教室 准教授）
〈事務職員〉（H20.4.1）
髙橋　昌弘（主査）



平成20年度 入学式

ワクワク、DIT新入生。

4月1日㈫、石井記念体育館で、
平成20年度入学式が厳粛に挙行された。
キャンパスが新入生748人のワクワク感に包まれていた。

入学生代表の土井健太君（工学部機械工学科）

入学式を終えた新入生

学歌斉唱

新任教職員紹介

卒業パーティーより
（中段右から5人目）

高木基充 教授

情報学部情報デザイン学科
メディアデザイン専攻

1月1日よりメディアデザイン専攻に就任しました高木です。私の専攻はグラフィックデザインですが、近年グラフィックデザインの位置づけも随分変わりました。多種多様な情報メディアへの対応力を求められます。映像、デジタルサウンド、Web、DVDなど他メディアとの融合（1ソース・マルチユース化など）した業務などです。今迄は、専門知識の切り口が一つあればよかったのですが現在の情報過密時代には、情報をパラレルに分析対応でき、十分な表現力を用い、技術力と応用を合わせ持つ人材が必須になってきています。さらに付加価値を求められることも多くあります。今後もこれらの傾向が緩む事はないでしょう。クリエーターにとっての負担は増すばかりです。そして今後も加速する情報化時代の潮流を見極め続けなくてはなりません。それらを踏まえて、これからの情報多様化時代が求める人材を、この大同工業大学から一人でも多く社会に送り出せればと思います。

今後とも優秀な先輩教員、職員の皆様方と共に大同工業大学の発展に寄与していきたいと思います。

事口壽男 名誉教授（工学部都市環境デザイン学科）

瑞宝小綬章受章の栄誉に輝く

平成19年11月23日、65歳で逝去された事口名誉教授。長年にわたる教育・研究および国際交流活動の功労が認められ、平成20年1月22日に瑞宝小綬章を受章されました。

編集後記

あっという間に、年度が終わり、そしてまた新年度が始まる。いつも仲間内で話題になるのだが、年々時が経つのが早くなっているようだ。

さて、3／29㈯ 私が顧問を務めるラグビー部の“追いコン”が開かれ、4人の卒業生を追い出してやった。この4人は全員地元就職だと自分に言い聞かせるわけだが、やっぱり寂しい。会の最後の挨拶、我慢できなかった。お酒を飲むとどうも涙もろくなるようだ（言い訳…）。

次をつくる人をつくる
大同工業大学
DAIDO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

DAIDO CAMPUS—大同工大キャンパス No.64 2008年4月25日発行（季刊）
編集・発行：大同工業大学広報室 〒457-8530 名古屋市南区滝春町10-3 TEL052-612-6193 FAX052-612-5623
E-mail koho@daido-it.ac.jp URL http://www.daido-it.ac.jp